

地域医療の現場から



地域住民の皆様に 信頼され、期待され、 選ばれる病院となるために

国保水俣市立総合医療センター 事務部長 田畑孝次

病院的概要

- 設立年月：昭和 28 年 9 月
- 許可病床数：417 床（感染症 4 床）
- 入院基本料：10 対 1
- 職員数：353 人
（医師 45 人、看護師 217 人）



人が行きかい、ぬくもりと活力ある～環境モデル都市みなまた～

水俣市は熊本県の最南端、鹿児島県との県境に位置し、西はリアス式海岸を有する不知火海に面し、北から北東にかけて葦北郡津奈木町と芦北町、南は鹿児島県出水市と伊佐市に接しており、三方を九州山地の支脈に囲まれています。人口は約 2 万 7,000 人、気候は温暖多雨な海洋性気候です。

海の「湯の児温泉」と山の「湯の鶴温泉」と 2 つの温泉を有し、また、徳富蘇峰・蘆花兄弟、淵上毛銭といった文化人を輩出しています。

現在、水俣市は水俣病を教訓に環境保全に取り組んでおり、資源循環型社会の構築、さらには将来の都市像「人が行きかい、ぬくもりと活力ある～環境モデル都市みなまた～」を目指し、市民一体となってまちづくりを進めています。

水俣病の原因となった水俣湾の有機水銀汚泥は埋め立てが行われ、その埋立地は「エコパーク」と命名され現在に至っています。

エコパークには「環境と健康」をテーマに竹林園、観光物産館「まつぼっくり」、花の里、ソフトボール場、親水護岸などが整備され、市民に親しまれています。



エコパークの親水護岸



コスモス園（中尾山）

住民の安心と健康を支える地域の中核病院

国保水俣市立総合医療センターは、市街中心地にあり、昭和28年9月に診療科4科、病床数98床で水俣市立病院としてスタートし、昭和40年3月に附属湯之児病院（リハビリセンター）を開院しております。平成2年1月に現在の名称に変更し、平成17年3月に統合により附属湯之児病院を閉鎖、同4月にリハビリ病棟を新設して、現在に至っています。

当院は地域の中核病院として、急性期医療を中心に高度で安全な医療の提供に努めています。また、水俣・芦北地域の二次医療圏のみならず、伊佐市・出水市・出水郡等の鹿児島県北薩地域の広い圏域における二次救急医療や周産期・小児医療をはじめとする地域医療の中核的医療機関として、熊大医学部のご協力を頂きながら医療機能の充実に努め、住民の安心と健康を支えています。

その他に、地域住民の健康管理部門として、健康管理センターでの人間ドック（日帰り、一泊二日）等の各種健診、料理教室、糖尿病教室等を開催し、市民の健康づくりに積極的に取り組んでいます。

地域連携として医療機関や市民との懇話会の開催

地域医療の連携として、平成18年度から毎年「地域医療連携懇話会」を開催し、水俣芦北医療圏及び伊佐市・出水市・阿久根市の医療機関との連携強化に努めています。

また、市民との連携として、平成21年度から「院長と語ろう」と題した市民懇話会を年2回開催しております。

昨年度はがん診療連携支援病院として県に認定されましたが、今年度は地域医療支援病院の申請を行っており、さらに地域に根ざした病院を目指しているところです。



地域医療連携懇話会



市民懇話会

情報化への対応とマンパワーの活用

平成18年10月から、当院では、それまで運用してきたオーダリングシステムを発展させる形で総合情報システムを導入しています。同システムには、電子カルテシステム、医事会計システムと、各部門で運用している放射線画像システム、栄養システム、検査システム等の部門システムとを接続しており、情報化時代に対応した、効率的で正確な業務遂行を目指しています。

一方、ハード面だけでなく、マンパワーを活用した人的資源の向上にも力を入れています。BSC（バランストスコアカード）の導入やQC（クオリティコントロール）活動の展開、院内の各種委員会及び会議の運用等により、院内のさまざまな問題に対処したり情報を共有して、職員の意識高揚、コンセンサスの確保等に努めています。

耐震化等施設整備により災害時医療拠点としての機能充実を図る

当院は、救急指定病院及び災害拠点病院の指定を受けており、先の東日本大震災のような大規模災害が発生した際には地域の医療拠点となる役割を担っております。

そこで、この度、医療施設耐震化臨時特例交付金を活用して西館の耐震化改築に着手することになり、今年度末に着工する予定としています。今回の施設整備は、先にも述べたように県南及び北薩の広域医療圏の急性期中核病院として、安心安全な医療提供をするために不可欠の整備です。

今後とも地域住民のための医療に当院が貢献できるよう専念してまいります。